

● 設立披露パーティー

藤末健三民主党参議院議員の祝辞

ただ今、ご紹介頂きました藤末健三と申します。本当に若輩ものでございますが、ご挨拶を申し上げたいと思います。

私は、今ご紹介されましたように、実は 1995 年マサチューセッツ工科大学の MOT プログラムの卒業生でございます。そして、帰国しまして経済産業省に戻りましたが、99 年に辞め、東京大学が MOT 専攻の学科を作るといので、東大に移り、そして 2004 年に東大を辞めて、政治の世界に至っております。

私は今、経済の問題、景気の問題を担当しておりまして、やはりもっと自信を持つというのか、何を考えなくてはいけないかと言うと、「国レベルの MOT がない」のではないかと感じております。国家としての MOT、本当に私たちの国はどのようになるかと言うと、食糧、エネルギー、原料を輸入して、それを加工して輸出して生きているという貿易国家であるということとは変わりありません。その貿易国家の基盤は何かと言うと、すべてテクノロジー、つまり、テクノロジーで付加価値を付けて出すしかないということ、もう一度考え直さなくてはいけない時期に来ているのではないかと思います。

例えば、短期的に今、アメリカではオバマ大統領がグリーン・ニューディールという話をしている。そうすると私たちの方は、すぐに、日本版グリーン・ニューディールが言われ。もう東大前総長の小宮山宏さんも「日本版はまずないだろう」と言われていましたし、もう一点、あれは実際書かれた論文を読むと公共投資ではありません。はっきり言って、アメリカの産業と社会を環境対応型に変えてしまおうという、長期的な構想なのです。それがまだ日本人には分かっていない。何ぞか。テクノロジーが分からないからです。これは非常に危険だと私は思います。かつ、何ぞテクノロジーが分からなくてはいけないかと言うと、今の景気対策がそうですし、もう一つあるのは、今こそ変えられる最後のチャンスだと、私は思います。今年の 8 月から貿易収支は何と赤字です。我々は物を売って外貨を稼いでいた時期から変わって

しまった。私は、この動きは2, 3年続くと思います。もしかしたら永遠に続くかもしれない。それでは国はやっていけません。6兆円の食糧を買い、22兆円のエネルギーと原料を買っている我が国がどうやって生きていくか。それは、まさしく今問うべき時であると思います。

私は今、民主党という党におりますので、大先輩がおられる前で失礼ですけど、1回政権を取らせて頂いて、抜本的に舵を取りたいのです。今、マニフェストというものを書いています。私は科学技術政策を相当書かせて頂いております。その思いは何かというと、本当に今、舵を切らなきゃいけないし、皆様が声を出して頂きたいと思います。変えなきゃいけない。そして変えられるのは、政治の力だと思います。経団連のみでは、無理だと思います。はっきり言います。私たち皆様に選んで頂いた政治家が官僚の方々の意思を組み、一緒に日本の国を変える時期に来ていると思います。私は国の MOT は必要だと思いますし、同時に私がもう一つ必要なことは、MOT の枠をもっと広げ、新しいイノベーションが起きる時に法制度をどう変えないといけないか。この 2000 年代で会社法が改正され、株主がどんどん強くなった。株主の配当と自社株がこんなに増えています。それでは、研究開発はどうかと言うと減っています。研究開発は減っているのですよ。この時代に、それが何ぞ起こるかということ、ぜひ、皆様からお知恵を頂き、そして本当に一人ひとりが MOT としてマネジメントすることを、そして会社をマネジメントすること、そして又、もう一つは国家をマネジメントするというレベルまで、林さんと私、党は違いますが、そのうち党は一緒になりますので、ぜひ、お力を頂きたいと思います。

どうも本日はおめでとうございます。